

『京都大学言語学研究』第 43 号原稿募集

投稿規定

- 掲載論文は京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI) にて公開される。
- 同一著者 (共著を含む) は下記 A, B の種別からそれぞれ 1 件ずつ、合わせて 2 件まで同一号に投稿できる。
- 原稿は随時受け付けるが、編集の都合により掲載が次号に持ち越される場合がある。なお、年度内の出版に間に合う投稿時期の目安は、例年 9 月ごろまでである。
- 採否は編集委員会で決定し、2 か月以内に通知する。
- 執筆者には掲載号と論文の電子ファイルを進呈する。抜き刷りを希望する場合は自己負担となる。

投稿方法

- 投稿は電子メールにて受け取る。
- フォントの埋め込み処理をした PDF 形式のファイルを電子メールで提出。
- 下記の原稿データを原稿 (既定の様式に沿ったもの) とは別のファイルに記載し、電子メールに添付して提出：
 1. 題目 2. 英語題目 3. 執筆者名、ふりがな 4. 原稿種別 5. ページ数 (要旨は含めない)
 6. キーワード 7. 所属機関 8. 連絡先 (郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス)

執筆要綱

- 使用言語 基本的に日本語か英語で執筆することが望ましい。それ以外の言語に関しては、編集委員会に相談すること。母語以外の言語を使用する場合は、しかるべきネイティブスピーカーにあらかじめ見てもらい、執筆者は本文の可読性について責任をもつこと。
- 種別

A	研究論文	— 完成した研究論文
	研究ノート	— 研究の初期段階をまとめたもの
	書評論文	— 他者の出版物に対し独自の考察・見解を述べた論文
	言語資料	— 談話資料、語彙集など言語資料をまとめたもの
B	書評	— 他者の出版物を紹介・批評したもの
- 原稿の様式
 - サイズ A4 版用紙
 - 枚数 論文 30 枚、研究ノート・書評論文 20 枚、書評 10 枚、言語資料 30 枚を目安とする。これを超える場合は編集長と相談すること。
 - 書式 『京都大学言語学研究』のホームページ (<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kultr/>) 上に掲載されたスタイルファイル、或いは Word テンプレートを使用することが望ましい。書式については上記ファイルを参照のこと。
 - 図表 モノクロのみとする。
 - 要旨 論文タイトルの下に論文の執筆言語と同じ言語で書かれた要旨・キーワードを載せる。要旨の字数制限は日本語 400 字以内、英語 20 行以内とし、キーワードは 5 つまでとする。また、本文の後ろに執筆言語が日本語の場合は英語、その他の言語の場合は日本語で書かれた、A4 版用紙 1 頁以

内の要旨・キーワードを書く。書評については要旨・キーワードは不要とする。

■ 氏名 投稿時は氏名を記入しないが、校正の際、担当者から記入の指示がある。

■ 書評タイトル指針

第 1 著者名・他の著者名『書名』版、出版地：出版社、発行年、ローマ数字頁数＋頁数

西田龍雄（著）『西夏文華嚴經 I』京都：京都大學文學部、1975、xii + 179 pp.

Yoshida, Kazuhiko: *The Hittite Mediopassive Endings in -ri* (Studies in Indo-European Language and Culture, New Series, Vol. 5). Berlin and New York: Walter de Gruyter, 1990, xi + 216 pp.

■ 参考文献指針

和文、欧文、その他言語の文献に分けてアルファベット順に並べる。

氏名を 2 通り以上併記する場合は、最初に記された氏名で並べる。

【雑誌論文】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）「論文名」『雑誌名』巻数：頁数.

【論集などに所収の論文】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）「論文名」編集者（編）『論文集名』頁数. 出版地：出版社.

【単行本】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）『書名』（必要な場合は）版、（該当する場合は）シリーズのタイトルと巻号. 出版地：出版社.

【学位論文】

著者名（提出年）「論文名」学位論文の種類、大学名.

定延利之（1998）「言語表現に現れるスキヤニングの研究」博士論文、京都大学.

曾布川寛・吉田豊編（2011）『ソグド人の美術と言語』京都：臨川書店.

田窪行則（2005）「中国語の否定：否定のスコープと焦点」『中国語学』252：61–71.

田窪行則・前川喜久雄・窪菌晴夫・本多清志・白井克彦・中川聖一（1998）『音声』，岩波講座 言語の科学 2. 東京：岩波書店.

Catt, Adam (2014) The Derivational Histories of Avestan *aēsma-* ‘firewood’ and Vedic *idhmá-* ‘id.’ In Stephanie Jamison, H. Craig Melchert, and Brent Vine (eds.), *Proceedings of the 25th Annual UCLA Indo-European Conference*. Bremen: Hempen. 39–48.

Tida, Syuntarô (2006) A Grammar of the Dom Language. Doctoral dissertation, Kyoto University.

編集委員会連絡先

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

電話・FAX：(075)753-2827 電子メール：kulr.editor@gmail.com

※ご不明な点はお問い合わせください。